

## 「GIC第13回ガラス技術シンポジウム」参加報告

(一社) ニューガラスフォーラム事務局

### Report on the 13<sup>th</sup> Glass Technology Symposium sponsored by GIC

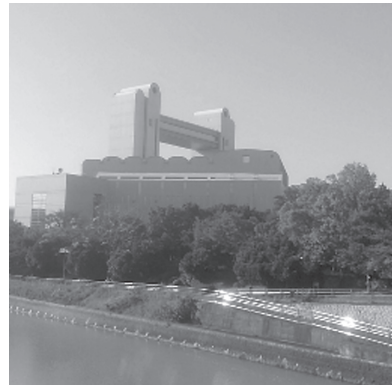
New Glass Forum

#### 1. 経緯

ガラス産業連合会(Glass Industry Conference)がガラス6団体で設立されて、17年目となります。GICの主な役割は構成するガラス関連6団体(板硝子協会、硝子繊維協会、電気硝子工業会、(一社)日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、(一社)ニューガラスフォーラム)の共通する技術課題のフォローや新年会など重複する行事を遂行することです。

ガラス技術の交流が、特に学界と産業界の間で不足しているとの反省から、産学交流活性化の対策として14年前から、日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトニクス材料討論会」(ガラ討)に共催プログラムとして「ガラス技術シンポジウム」を開催することになりました。また、ポスターセッションではガラ討と合同でポスターセッション、研究室紹介、その後の懇親会を行っています。

今回は、日程2日間(11月2日(木)~3日(金))、名古屋国際会議場を会場として行われま



した。

当フォーラムでは、企画部長の坂井が事務局をしてワーキンググループのメンバーとともに準備を進めてきました。当日の参加者は約231名と計画時の200名を大幅に上回りました。

今回のGICのガラス技術シンポジウムの招待講演は4件で、ガラ討の1日目の午後に開催させて頂きました。また、GIC会員、一般企業からのポスターセッション(主題Ⅱ)には13件のポスターを掲載いたしました。



更にガラ討の発表の座長などもGIC側委員にご協力いただきました。

## 2. 講演テーマと講演者

今回は、「プラズマ・ケミカル法を用いた燃焼排ガスの脱硫・脱硝」(山本 柱 氏:日本山村硝子(株)),「天然ガス焼きガラス溶解バーナおよび低環境負荷バーナ」(柳樂 慎輔 氏:大阪ガス(株)),「燃料としてのアンモニア利用とガスタービン発電」(壹岐 典彦 氏:産業技術総合研究所),「高温炉熱の熱化学再生による省エネルギー」(中垣 隆雄 先生:早稲田大学)の4件の講演をいただきました。



ポスターセッションでは、例年のようにGICの活動紹介のポスターとニューガラスフォーラムからガラス種32万以上収録の「INTERGLAD Ver 7.6」と国家プロジェクトの成果のフォローアップ事業のポスターの展示をおこないました。



ポスター会場

## 3. 余話

今回の会場は、地下鉄を利用すれば名古屋駅からのアクセスも良く、名古屋の中心部のホテルにも地下鉄一本で移動できる便利な場所がありました。栄の五千円台の朝食付きのビジネスホテルに泊まり、アフター20を楽しみました。